

東京支部だより

◆2022年度 東京支部総会・懇親会

◆6月4日(土)品川プリンスホテルにて、2022年度神撫会東京支部総会・懇親会が盛大に執り行われました。今年は45・46回生が合同で幹事を務めました。コロナ禍により2020年度は総会・懇親会ともに中止、2021年度も総会のみをオンラインで開催したため、直接お会いする形での総会・懇親会は3年ぶりとなりました。また会場は例年の渋谷東武ホテルではなく、ご縁があって品川プリンスホテルでの初開催となりました。

今年の総会テーマは、『つなぐ2022』時を超えてつなぐ場所を超えてつなぐ。今こそつながろう神撫の魂(こころ)でした。コロナ禍によって、これまでのように人と会うことすら難しくなった時期を経たいま、「人と人がつながっていることの大切さ」を改めて感じたい。そんな思いがテーマに込められています。

今回は現地に來ることが叶わなかった人ともつながるための試みとして、ZOOMを活用したリアルタイム配信にも挑戦し、ホテル会場とネット配信のハイブリッド開催を実現しました。ハイブリッ

ド開催が決定してから準備に費やせる時間は限られていましたが、45回生が中心となって開催当日のリハーサルまでぎりがりの調整を重ねることで実現することができました。

総会は、2022年1月に新たに就任された山口英一支部長(高38)から開会のご挨拶によりスタート。続いて、南谷育子事務局長代行(高42)から、会計報告と理事改選の提起が行われ、拍手をもって承認されました。また、監査役の松島圭一監査役(高37)より会計監査報告がありました。その後、来賓の山根尚校長先生、兵庫県東京事務所の今後元彦所長、神撫会の玉田敏郎理事長からご挨拶を頂きました。また、2021年12月末をもって神撫会東京支部長を退任された南山宏之さん(高25)から退任のご挨拶をいただきました。

総会後の懇親会は、田中雄二さん(中22)の乾杯の御発声からスタート。幹事回生による企画の開始に先駆けて、芸人兼記者の「おしどりマコ」こと吉岡雅子さん(高46)が急遽ステージに登場し、会場を盛り上げます。続いて、この企画のために駆けつけた芦屋姿勢塾の松岡裕美さん(高46)による姿勢講座に、ネット越しに参加されている人たちも含め、参加者全員が学び、楽しみました。

続いては、高校までの通学路や商店街の現在の様子を映像でご覧いただきなが

ら、ステージ上では松岡さんと俵口和浩さん(高46)の二人が掛け合いを繰り広げました。当時は懐かしんだり、新たな発見をしたりして、時と場所を超えたつながりを感じることができました。

そして映像は次の企画である「ナガタイムカプセル」10年後のキミへの手紙」へと続きます。このタイムカプセル企画は、2010年度の東京支部総会・懇親会の特別企画として実施したもので、未来の自分や大切な人へ手紙を書いてタイムカプセルに封印し、長田高校創立100周年である2020年に開封する予定でした。東日本大震災やコロナ禍を経て、結果として12年越しの企画となりました。ようやくタイムカプセルを開封する時がやってきました。タイムカプセルの存在を確かめるべく神撫会館へ向かった新谷昌代さん(高46)と松岡さんは、46回生が現役生だった時の担任であった細田先生との運命的な再会を果たし、神撫会館へ案内していただきました。12年もの間厳重に保管いただいたタイムカプセルを無事に受け取った映像をご覧いただいた後、ホテル会場ではタイムカプセルの現物をお披露目し、12年前にご自身で書いた手紙を受け取っていただくことができました。会場の参加者を代表し、谷岡達也さん(高36)、田中直美さん(高28)、南山宏之さん(高25)にステージに上がっていただき、ご自身の手紙を参

東京支部長・代表理事交代のお知らせ

2022年1月1日付で東京支部長・代表理事が(高25)南山宏之から(高38)山口英一に交代いたしました。二人よりご挨拶させていただきます。

神撫会東京支部長退任のご挨拶

つなぐ。NAGATAの人と心を。

前神撫会東京支部長

南山宏之(高25回)



東京支部は、関東エリアに在住する卒業生の集まりです。

ふるさとから離れた東京から見えるNAGATAは懐かし、青春時代をすごしたNAGATAへの想いは特別です。現在の東京支部は、1998年に銀座で開催された臨時総会から始まります。活動が停止し、支部の存続が危ぶまれる

中、中西元男先輩(元支部長 高8)の呼びかけで、支部再興のための4名の委員が指名され、私もその内の一人に入っていました。1年かけて委員会を決めた支部再興の理念は次の3つでした。

1. 卒業生の交流を豊かにし、母校に貢献する。
2. 多様性を大切にし、持続可能な組織へと拡大変容させる。
3. そのためには、支部運営は、固定的な人が行うのではなく、常に循環し、自由で民主的で、新しい風を取り入れる。

早速、翌年1999年、高25回生が担当回生として、第一回東京支部総会の企画運営を実施しました。

久しぶりに東京で再会する高25回生は、皆、それぞれに立派になっていましたが、あつという間に高校時代に戻り、総会の企画運営を経験することで、強い絆が生まれました。それを機に、東京支部の総会運営は、担当回生制度を導入することになったのです。

2005年、仕事での師匠でもあった中西元男支部長の意志を引き継ぎ、二代目東京支部長として、その後の支部運営と担当回生へのサポートを担当させていただきました。

あれから、東日本大震災があったり、100周年事業の準備があったり、様々なことを皆で乗り越えてきました。そして、気がつけば支部長は長老の域に達しており、まるでマウンティングゴリラのよう

神撫会東京支部長就任のご挨拶

新神撫会東京支部長

山口英一(高38回)



ここ数年はいつ完全に終息するのか見通しの立たないコロナ・パンデミックが

加者の皆さんにも共有いただきました。

総会懇親会の模様は、近日中に東京支部HPに掲載いたしますので、どうぞお楽しみに！

(高46回生)



地表を覆い、東京支部でもこれまでのような同窓会活動が継続できない状態が続いてきました。

一方で、テレワーク対応に代表されるように、遠隔地であってもインターネット回線を通じて容易に参加できるようなアプリも登場し、逆に地理的な制限を超えて卒業生が参加できる新しい活動のカタチも選択肢として生まれつつあるように思われます。(東京支部ではZOOMによる総会と懇談会の開催他、卒業生を講師として迎えてお話を伺う長田サロンのZOOM開催とその動画のYouTubeによる配信を行ってきました。)

個性と多様性にあふれる長田卒業生の繋がりを紡いでいくためにも、機動性があり本部とも連携のとれたサステナブルな同窓会活動が出来ればと考えております。つきましては、リアルとの対面に加え、ネットを活用した企画などのハイブリッドも含めて、卒業生同士の対話が出来る機会を増やして行くことが出来たらと思いますので、東京支部への各種提案、折々のプロジェクトや企画の限定的なお手伝いの申し出、同期会に参加するのは憚られるけれども趣味や住んでいる地域での繋がりが負担にならない、などの声がありましたら、遠慮なくご連絡頂きたいをお願いします。

前任者同様、東京支部の活動へのご支援・ご理解につき、宜しく願っています。